

國學院大學學術情報リポジトリ

デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平藤, 喜久子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000566

「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

プロジェクト責任者 平藤 喜久子

1. プロジェクトの概要

本プロジェクトは、2016年度から2018年度まで実施された「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」の後継的な位置づけのプロジェクトとして2019年度にスタートしたものである。

プロジェクトを中心に研究開発推進機構で構築してきた「國學院大學デジタル・ミュージアム」(<http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/DM/>)について、研究開発推進機構の情報発信の有機的連関を図り、日本文化研究所が蓄積してきた研究成果や学術資産、研究開発推進機構によって実施されている研究成果や各種のデータベース等をデジタル化し、主としてインターネットを通して国際的に発信していくものとして運営していくことが一つの大きな柱とされ、学内の学部・大学院で構築したデータベース等を横断的に公開することにも対応することを目指している。また、21世紀COEプログラム関連事業として構築したEncyclopedia of Shinto（以下EOS）を拡充させ、神道文化に関する国際的なポータルサイトの構築も引き続き行う。さらに神道および日本文化研究の基礎資料の翻訳、教派神道関係の収集資料の公開など、プロジェクト独自のコンテンツの充実も図ってきた。

デジタル・ミュージアムの機能を、広く大学教育において活用できるものとするための取り組みも行い、スマートフォンを使用した場合の利便性の向上や、動画配信のシステム構築を目指す。また、研究資産を宗教文化教育の教材として展開させていくにあたって

は、2011年に宗教文化士制度の運営を目的として発足した「宗教文化教育推進センター」と連携して行ってきた。なお、宗教文化士制度については、國學院大學も設立当初から参加し、神道文化学部、日本文化研究所の教員が運営に関わっているものである。

2019年度には、宗教文化教育推進センターのほかにも2018年度に採択された科研費・基盤研究（B）（一般）「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」（研究代表者・平藤喜久子 18H00615）、古事記学センター、ハーバード大学ライシャワー日本研究所などとも連携を深め、共催のワークショップも実施した。また、昨年度に引き続き古事記学センターとは古事記の英訳の作成の面でも協力関係を築いている。

2019年度の本プロジェクトのメンバーは次の通りであった。

〔専任教員〕：平藤喜久子、星野靖二、齋藤公太、吉永博彰

〔兼任教員〕：黒崎浩行、シッケタンツ・エリック、藤澤 紫、ハイヴンズ・ノルマン

〔客員研究員〕：加藤久子、フレール・チャールズ

〔ポストク研究員〕：今井信治、村上 晶

〔研究補助員〕：小高絢子、高田 彩

〔客員教授〕：井上順孝、櫻井義秀、土屋 博、ナカイ・ケイト、山中 弘

〔共同研究員〕：天田顕徳、ガイタニディス・ヤニス、カドー・イヴ、塚田穂高、野口生也、ビュテル・ジャン＝ミシェル、牧野元紀、矢崎早枝子

2. 2019年度の成果

(1) デジタル・ミュージアムの運営

デジタル・ミュージアムワーキンググループ会議を3回開催して、各データベースの実務担当者・システム設計業者と情報の共有を図った。デジタル・ミュージアムの総データ件数は72,451件、2019年1月から12月までの総アクセス数は886,173件となっている。使い勝手の向上とアクセス数を増やすための方策について協議した。

(2) デジタル・ミュージアムの展開のための独自のコンテンツの構築

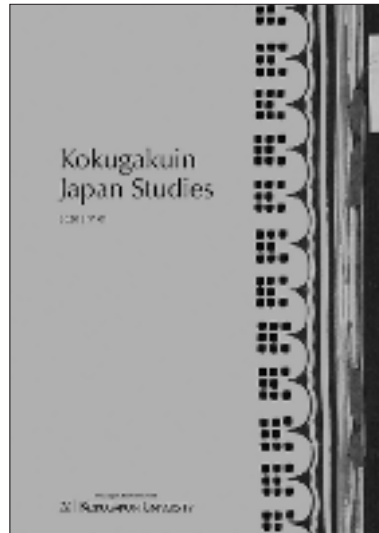
神道の英語での情報のポータルサイトとなる Shinto Portal の運営を開始した。主として日本文化研究所がこれまでに作成した神道に関する英語コンテンツを集約している。EOSの改良作業を進め、また国学プロジェクトと協力して「国学・神道関係人物研究情報データベース」を拡充した。旧日本文化研究所以来の学術資産や催事情報などの整理、集約を進め、新規に運用を開始した日本文化研究所ウェブサイトで公開した。本学の教員による学術成果を英語で発信していくために、オンライン英文雑誌 *Kokugakuin Japan Studies* を創刊し、下記の三本の英訳論文を掲載した。

①“The Kojiki’s Worldview: Entangled Worlds of Gods and Humans” TANIGUCHI Masahiro (* 谷口雅博「『古事記』の世界認識—交錯する神の世界と人の世界—」『東アジア文化研究』2号、2017年2月、1-15頁の英訳)

②“On the Folktale An Ox in the Bride’s Carriage: Classical Tellings and Worldwide Comparisons” HANABE Hideo (* 花部英雄「昔話「嫁の輿に牛」

の研究—古典および世界との比較—」『國學院雑誌』120巻3号、2019年3月、19-32頁の英訳)

③“The Origins of Shimao Toshio’s “Japanesia” Ideas” ISHIKAWA Norio (* 石川則夫「島尾敏雄の「ヤポネシア」論—その起源へ—」『國學院雑誌』118巻1号、2017年1月、67-84頁の英訳)



(3) 宗教文化教育の教材研究の国際的展開

「宗教文化教育推進センター」と連携してオンライン教材の作成を進め、映画と世界遺産に関するデータベースの内容を拡充した。宗教文化教育に関する研究会を國學院大學で3回開催し、うち1回は次のような公開のワークショップであった。

ワークショップ「生活の中で直面する世界の宗教文化—食・服装・忌避などへの理解」

【日時】6月29日(土)15時~18時

【会場】國學院大學渋谷キャンパス1101教室

【登壇者】

・岩元陽子 (NPO法人 MICかながわ 英語
通訳・派遣コーディネーター)

「医療現場における宗教文化への対応 — 医

療通訳者の視点から一」

・カーン恵理子(合同会社Crossbridge 代表、
食のバリアフリー推進協議会 代表)

「ムスリムとして日本に暮らすこと。その課題。」

【指定討論者】

井上順孝(國學院大學)、矢野秀武(駒澤
大学)、板井正斉(皇學館大学)

【司会】

平藤喜久子(國學院大學)

【主催】 國學院大學研究開発推進機構 日本文
化研究所、宗教文化教育推進センター

本ワークショップでは、学生のほか、広く
一般社会に宗教文化教育の意義を示した。

また、科研費・基盤研究(B)(一般)「日
本宗教教育の国際的プラットフォーム構築の
ための総合的研究」(研究代表者・平藤喜久子)
の研究会として下記が本研究事業とも連携して
実施された。

「海外で教えられる日本の宗教文化」

【日時】 2019年8月3日(土) 14時~17時30分

【会場】 國學院大學 学術メディアセンター
会議室06

【発表者】

・アンドレア・カスティリオーニ(名古屋市
立大学)

「米国と日本の大学から見た日本宗教教育」

・李賢京(東海大学)

「韓国の大学において日本の宗教文化はど
のように教えられているのか—教えられる
側と教える側の両方の経験から」

また、2019年11月11日には、ハーバード大
学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所
と國學院大學研究開発推進機構古事記学セン
ター、同日本文化研究所共催のワークショッ
プ「近現代日本の宗教文化と「古代」」が開
催され、日本文化研究所からは平藤喜久子、

遠藤潤、星野靖二が参加した。

本企画は、ハーバード大学のヘレン・ハー
デカ教授の多大なるご助力によって実現した
もので、ハーデカ教授司会のもと、次の発表
が行われた。

①平藤喜久子「神の姿にみる古代と現代」

②遠藤潤「平田国学における古代の神のリア
リティ—近代に向かって—」

③星野靖二「日本宗教史の叙述と「古代」—
宗教学の展開との関連において」

④齊藤智朗「造化三神をめぐる神学の構造と
展開」

それぞれの発表について、次の研究者が
ディスカッサントとして加わった。

Prof. Jolyon THOMAS (University of
Pennsylvania)、Prof. Anne WALTHALL
(University of California, Irvine)、Prof.
Kaoru HAYASHI (Texas State
University)、Prof. Trent MAXEY (Amherst
College)



加えて、事業・活動全般に関係することと
して、SNSや公式サイトを通じた情報発信に
取り組んだ。事業は全体として概ね順調に進
展しているが、学術的な成果を積み重ねてい
くことに加えて、日本語・英語での対外的な
発信を更に推し進めていくことが今後の課題
となる。

なお、2019年度に作成を進めたデータベー
ス、英訳論文雑誌、報告書は次の通りである。

[データベース] 國學院大學デジタル・ミュージアム <http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/DM/>
[データベース]「映画と宗教文化」データベース

<https://sites.google.com/site/cercfilms/>

[データベース]「世界遺産と宗教文化」データベース
<https://sites.google.com/view/worldheritage>

[ウェブサイト] 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所ウェブサイト

<https://www2.kokugakuin.ac.jp/oardijcc/>

[ウェブサイト] Shinto Portal
<https://www2.kokugakuin.ac.jp/e-shinto/>

[SNS] 日本文化研究所公式Twitter
<https://twitter.com/oardijcc>
日本文化研究所公式Facebook
<https://www.facebook.com/oardijcc/>

[オンライン雑誌] Kokugakuin Japan Studies, vol. 1, 2020
<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ijcc-publications/kjs-01-202002>

[英文報告書] Religious Cultures in Asia: Mutual Transformations through Multiple Modernities, 2020 (2018年度に開催した同名の国際研究フォーラムの報告書) <https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ijcc-publications/rcia-202002>

3. 2020年度の実施計画

前年度から継続し、デジタル・ミュージアムの運営にあたっていく。特に、2020年度にはデジタル・ミュージアムのシステムの刷新

が予定されている。新システムへの移行作業に当たっては、システムの都合上、これまでのデータベースをそのままの形式で移行できるものではないため、新たに分類・項目の検討・策定作業を進める必要がある。あわせて、新システムの稼働に向けた、移行後の表示内容や設定に関する確認作業等を中心に行っていく。

また、独自のコンテンツとしては、学生宗教意識調査を5年ぶりに実施し、その調査報告書を刊行・公開する。

さらに、「宗教と社会」学会や科研費・基盤研究（B）（一般）「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」（研究代表者・平藤喜久子）との共同実施により、オンラインで教材としても使用できる宗教文化の調査を目指す予定である。

催事としては、2020年12月に「見えざるもの」と日本文化の関係性に焦点を当てたシンポジウム・ワークショップよりなる、国際研究フォーラムの実施も企画されている。

2020年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態となり、研究計画に与える影響も少なくない。限られた条件のなかで、引き続き、少しでも研究目的の達成に近づくべく事業を推進していく予定である。